

論文審査の要旨

報告番号	㊦・乙 第 3156 号	氏名	黒岩 亮平
論文審査担当者	主査 巖本 三壽 副査 野部 浩司 副査 佐藤 勻		
(論文審査の要旨)			
<p>論文タイトル「カテーテルアブレーションによる悪心・嘔吐への影響」は審査当時、The Showa University Journal of Medical Science に投稿中に行われた。論文の目的は、不整脈治療の根治術であるカテーテルアブレーションは、動脈カテーテルも用いて心房の異常な電気信号の発生源を除去する手法で、心臓ペースメーカーよりも有効な治療とされている。本論文の筆者である学位審査申請者（以降、申請者）は、手術における侵襲ストレスの軽減のため術後悪心嘔吐に着目した。方法は、申請者が勤務する横浜市立みなと赤十字病院で手術を受けた 256 名の患者を対象とした後方的コフォート研究で、基本的アセスメント情報、入院中検査データ、さらに、術中に使用された鎮痛薬ペンタゾシン（投与量 15mg、および 30mg）、その他薬剤等、それら多数の項目と悪心嘔吐との関連性の有無を単変量解析、および、多変量解析により調べた。結果として、独立した悪心嘔吐と関連した因子は、ペンタゾシン 30 mg、および女性であることが抽出された。この研究の考察として、悪心嘔吐を軽減し、術中の成功を高める幾つかの具体的な薬物療法の提案を行い、この研究成果による治療改良の可能性を示した。本審査では、本論文は新たな知見を有し、当該治療に一定の貢献を予見できたことから、学位論文に相当する価値があると認めた。</p>			

(主査が記載、500 字以内)